



学校だより

第4号

平成28年7月1日発行

「教職員一人一人と面談を行って」

(校長 鈴木 久之^{ひさの})

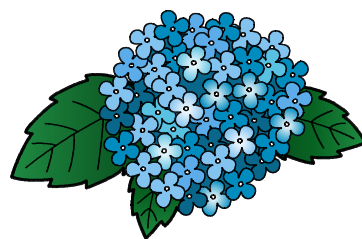
梅雨空で気分が暗くなりがちですが、雨の日こそきれいに映える紫陽花の美しさは、うっとおしい雨の季節を楽しいものに変えてくれます。今年は、特に水不足が心配されています。適度な雨模様は歓迎したいですね。

さて、今、学校では教職員一人ずつ校長と面談を行っています。これは、例年行っている「人事評価」というシステムの一環です。主な目的は、教職員それぞれの役割を自覚し、課題を認識して職務に主体的に取り組み、能力開発及び人材の育成を図ることです。

校長との面談は、教頭から運転手、調理員など各職種に応じた「目標申告シート」を使用しながら行います。例えば、教諭であれば学習指導、生徒指導、校務分掌、調整・連携、不祥事防止の項目に従って、本年度の具体的な目標とその目標達成に向けての具体的手立てを「目標申告シート」に記入します。今回の面談は、年度当初に行うもので、それぞれの内容について指導・助言を行ったり認識を共有したりします。

面談を行うことによって、子どもたちの様子を知る絶好の機会となります。子どもたちも新年度がスタートして3か月が経ちました。友達や教員などとの人間関係づくりにお互い高め合っている様子を聴き、あのCMが頭をよぎりました。

「やわらかいところをもちましょう」
セトモノとセトモノと
ぶつかりっこするとすぐこわれちゃう
どっちな やわらかければ だいじょうぶ
やわらかいところをもちましょう
そういうわたしは いつもセトモノ
相田みつを



よく「言い方は思いやり」という話を聴きます。学校の教育活動で子どもたちの心を豊かに育てられるよう、このような面談を通して、教職員のチームワークを高め、学校の組織の活性化を図っていきたく思います。

学校改善に向けて 第1回開かれた学校づくり委員会から

6月21日(火)に行われた委員会では出された御意見を紹介します。

- ◆放課後等デイサービスの利用が多くなっている。教育と福祉が一体となって子どもたちを見守りたい。
- ◆子どもたちにとって本当に必要な情報なのか、教室掲示を見直してほしい。
- ◆主権者教育の場に親も参加できないだろうか。
- ◆子どもたちが考え、行動する「あたりまえ防災隊」はよい。続けてほしい。

